

はせがわ じゅんじ
監修:長谷川順持

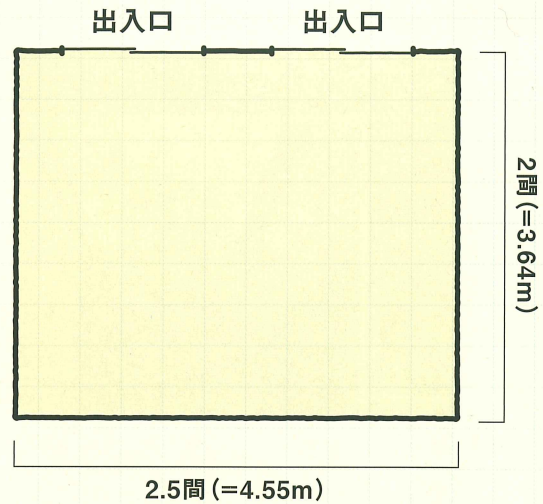
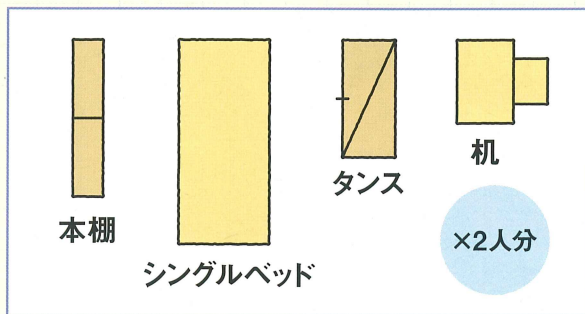
建築家・長谷川建築デザインオフィス代表。大学及び一般の人への教育活動が豊富。初学者と一般の人々へのメッセージ集『とっておき住宅デザイン図鑑』を先般上梓した。
<http://www.interactive-concept.co.jp>



問題

提示された家具を
右の部屋に2人分
配置しなさい。

ただし、2人は仲のよい姉妹で、
姉は12歳、妹は7歳とする。

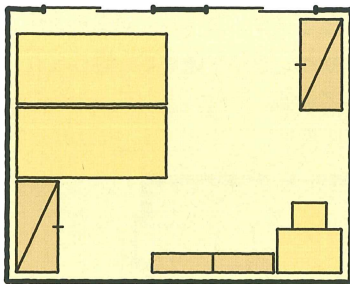


※表記の出入口から部屋に入ることとし、
それ以外の外部への開口部(窓)は考えなくてもよい。

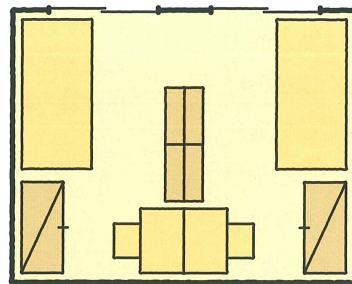
考察

年齢にともなう関係性の変化に対応するには？

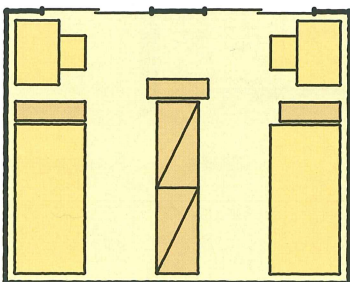
A いっしょに寝る、いっしょに遊ぶ
(10歳と5歳の頃におすすめ)



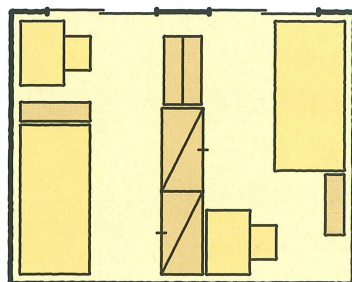
B いっしょに遊ぶ、別々に寝る
(12歳と7歳の頃におすすめ)



C 個室化しながらゆるやかにつながる
(15歳と10歳の頃におすすめ)



D 完全に個室の感覚に
(17歳と12歳の頃におすすめ)



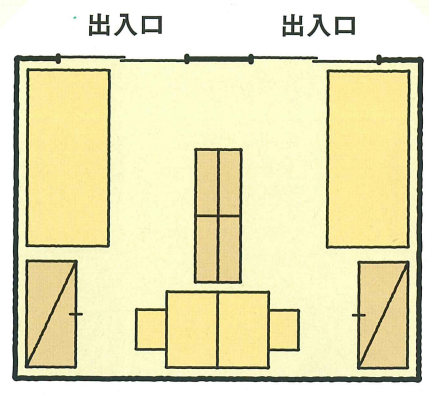
子ども部屋は壁で堅く区切らずに、収納や家具などのしつらえで場所づくりをする方が、成長に伴う変更が容易です。節目にもものを整理しながら模様替えできる子ども部屋は、楽しいものでもあります。

ひと部屋に兄弟姉妹のスペースをつくる時、気をつけなければいけないことは何でしょうか。設問では的を絞るために「仲のよい」「姉妹」「年齢差5歳」「今は7歳と12歳」という条件設定をしました。年齢差5歳の姉妹の場合、成長の過程でどんな変化が起き、それに対応する家具配置はどんなふうになるか、左に考察してみました。姉の年齢が低いうちは、妹とともに過ごすことに抵抗が少ないため、すべての空間を共有する配置に。年齢が上がるに従って、互いに干渉しあわず個の空間を確保できるとよいでしょう。性別が違う場合は、部屋の区切りが必要になる時期が、もう少し早まるかもしれません。

私なら
こうします

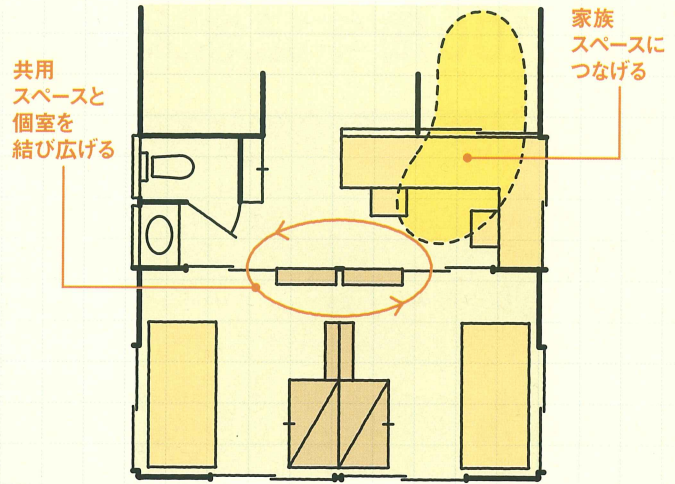
部屋どうしを堅い壁で仕切らない方が何かといい

問いに対する
私のおすすめは **B** です。



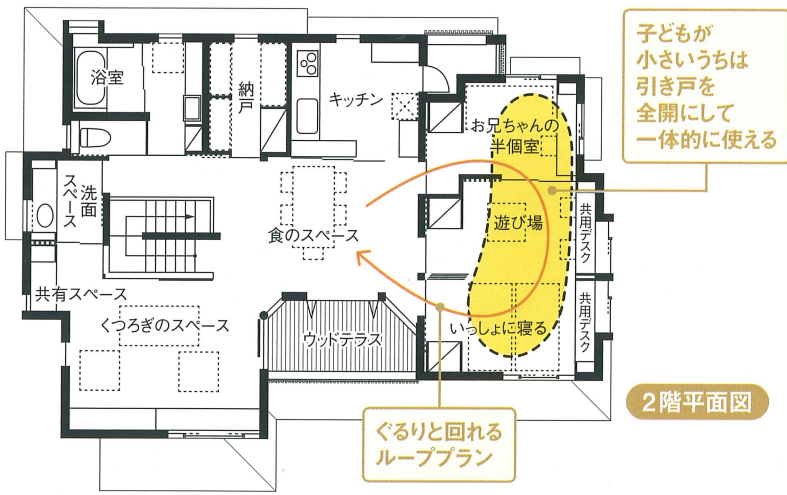
与えられた条件である「7歳と12歳」では、姉はそろそろ思春期にさしかかり、自分1人の時間も欲してくる時期ですが、まだ完全に個室化しなくてもよいという、端境期。そこで、ベッドを両脇に振り分けて本棚で空間を緩く隔てました。

● 部屋の周辺まで含めると、こんなことも考えられます。



上で取り上げた設計例では、1人分のスペースを4.5畳とミニマムにしつつ、室外に共用スペース(着色部分)を設けています。そうすることで、他の場所とのつながりや広がり生まれ、家族とのコミュニケーションが増えるという利点も。共用スペースで勉強すれば、個室には机がいらなくなり、遊び場としてもっと広く利用することも可能です。また、そう遠くない将来、子どもたちが巣立った際には「融通が利く」ということが強みを発揮し、さまざまな用途への転用も簡単に行えます。

応用編 3人兄弟がのびのび過ごせて家族にも近い子ども部屋



神奈川県・N邸
設計・写真=長谷川建築デザインオフィス

この住宅は、3人のお子さんがある家族のために設計しました(長男が小学生時点)。居間・食堂・台所と子ども部屋を2階にまとめています。子ども部屋は、1人当たり5畳ほど広くはありませんが、部屋どうしの仕切りを引き戸(床にレールのいらぬ吊り戸)にしてあるので、開けておけば続き間になります。台所にも近いので、お母さんは家事をしながらも子どもたちの様子がわかります。机は造り付けにしましたが、服を入れる収納は簡単に移動できるものにしました。どう使いこなしていけるのか、建築家としても興味深いところです。